

議 長	副 議 長	局 長	次 長	課 長	係 長	係 長	係

委員会行政視察調査報告書

令和5年7月21日

三田市議会議長 様

市民病院あり方特別委員会委員長 今北 義明

福田 秀章

檜田 充

北本 節代

長尾 明憲

大西 雅子

随行者 総合戦略部未来戦略室長 _____ 奥原 高

随行者 議会事務局議事総務課庶務係長 _____ 波田 笙子

本委員会が実施いたしました行政視察の結果を下記のとおり報告します。

- 1 実施日 令和5年7月5日（水）
- 2 視察先 岡山県玉野市
- 3 視察先対応者 (別紙のとおり)
- 4 添付資料 (別紙のとおり)
- 5 調査結果の概要及び所見 (別紙のとおり)

市民病院あり方特別委員会 視察報告書

■ 視察先： 岡山県玉野市 ■

□視察参加者議員

◎今北 義明、○福田 秀章、 檜田 充、 北本 節代、 長尾 明憲、 大西 雅子

□随行

地域医療推進室 室長 奥原 高

議会事務局 議事総務課 事務員 波田 笙子

□視察日時：令和5年7月5日（水）10：00～11：30

□視察事項 「玉野市立病院と玉野三井病院の再編・統合等について」

□視察対応者

玉野市 病院事業管理監 原田 英明

病院事業管理課 主査 谷 晃次郎

病院事業管理課 主査 石井 亨

地方独立行政法人玉野医療センター

総務事業部 統括事業課 課長 鴨田 光一

玉野市議会 副議長 山本 育子

議会事務局 調査係 係長 小田 学

議会事務局 調査係 主査 石井 陽子

【 玉野市の概要 】

- ・岡山県の南端、児島半島の基部に位置している。人口は、56,485人。面積は、103.58k㎡。市域の約60%が山地である。大きな河川もなく、特に海岸部は花崗岩質の山麓が海に迫り、複雑な海岸線となっている。平野部は約40%。その大部分を農村地帯が占めている。海岸部の平地は埋立造成地であり、ここを中心に集落が形成されている。

玉野市にある宇野港は、かつて本州と四国を結ぶ旅客港として賑わい、近年は宇野と瀬戸内海の島々を結ぶ航路が、アートによる地域づくりの盛り上がりとあわせて多くの観光客に利用されている。また製塩業、縫製業も盛んな地域である。

【 病院の再編・統合等の概要 】

- 玉野医療センター新病院の概要（別添資料）
- 玉野市民病院と玉野三井病院の統合 新病院の概要について（別添資料）
- 「病院の再編・統合等について」 事前質問事項に関する回答（別添資料）

新病院の概要についての説明を受けた後、事前質問の回答文の内容も含めて質疑を行った。

【 質疑 】

Q：市民の不安の声への対応。また、両病院の新体制にあたっての雇用対応について。

A：・基本設計段階で、病院長も入っての市民説明会を実施。統合されることで訪問診療がなくなることへの不安、また、公共交通のルートやバス停の位置などの声に対し、対応していった。
・雇用については、組合と協議する中で、給与制度を新しく作り直し、給与が下がる人には現給保障を実施。頑張る人には給与に反映される仕組みづくりにすることで、組合と妥結した。

Q：病床数が大きく減少するが、職員の雇用率は何割ぐらいとなるのか。

A：希望者は全員雇用する。両病院での病床数は 309 床であるが、実稼働数は 200 床であることから希望者の雇用は可能である。意向調査を進める予定である。

Q：医師の確保はどうか。

A：・両病院共に、医師が高齢化していることから岡山大学に医師派遣の要請をしている。2 病院への派遣は厳しいが、統合することで 1 病院となり派遣要請を受けやすくなる。しかし、若い医師の確保は難しいことから、引き続いての要請は今後も必要である。

Q：建設コンサルタントの導入への経緯と費用について。

A：設計段階で、20 億円オーバーになっていた。また、要望等が増える中で、コストダウンなどの精査ができなくなり、随意契約でコンサルタントを入れることにした。
要望等が増える中でコストダウンが難しくなり、費用を抑制するため建設コンサルタントを入れることにした。
また、随意契約により導入したが、契約先は NPO 法人であることから民間よりも安価で契約を締結することができた。

Q：新公立病院改革ガイドラインの影響はあったのか。

A：影響はなかった。

Q：断念している医療法人平成博愛会との関わりはどうか。

A：博愛会に指定管理を示したが、経営指導の立場で最終決定した。

Q：コストを低くするための方式が必要と考えるが、当初から DB 方式でも良かったのではないか。

A: DB方式は入札が必要であり、不調に終わることもある。ECI手法は、調整期間が持てるので不調が起りにくい。

※DB方式：デザインビルド方式。建設及び施工の両方を単一業者に一括して発注する方式。

※ECI方式：アトリートリコントラクターインボルブメント方式。

施行者が設計に技術協力し実施設計完了後に、発注者と施行者と価格交渉を行い、契約締結する方式。

Q: 跡地活用は、どうなっているのか。

A: 検討中である。

Q: 統合されても診療科が増えていないことに対する、市民の声は。

A: 科を増やして欲しいと言う声はないが、機能充実の声はある。

市内に産科がなく、市民は近隣で出産している。今後、産科は必要である。

Q: 施行先はどこなのか。

A: 施工者は戸田建設である。プロポーザル方式で2社。

Q: 市からの繰出金はどうなったのか。

A: 繰出金は、運営負担金、運営交付金、財政基盤を整える上限1億円。病院設立後の負担金はない。交付金がベースとなる。

Q: コンサルタントをどのようにして見つけたのか。

A: 香川県三豊市が契約をしていたので、本市も契約を依頼した。

【 所見 】

今回の視察先である玉野市の再編統合の経営形態は「地方独立行政法人」である。ここに至るまでには、市内3病院での連携・統合に向け協議を進めていたが不調に終わったこと。また、当初は指定管理者制度の導入を目指していたが、医療法人と同意が得られず、地方独立行政法人を選択した経緯の説明を受けた。民間との再編統合においては、給与制度や勤務条件の違いや病院運営に対する職員の考えの違い、更に統合に際しての資産の取扱い等、様々な課題があることを聞き、再編統合の難しさを実感した。

三田市においても、病院を利用する方への配慮と共に病院業務に従事する者への配慮も大事である。新たな職場で気持ちよく、やりがいをもって勤務につけるよう、医療従事者の声が反映され

る体制整備は必要である。

次に医師の確保であるが、統合する 2 病院共に医師の高齢化が課題であることから、大学病院に要請を依頼しているが確保は難しそうである。今回統合したことで 2 病院への派遣ではなく、1 病院のみの対応となることから、大学からの派遣が得られやすくなる。しかし、産婦人科は市内に 1 ヶ所もないことから今後産科は必要であり、産科設置に向け努めていくとの事であった。

今回の視察で、将来的な病院運営の継続性を考えると、現状の市民病院のままでは市民の命は守り続けることはできないことから再編統合したとの説明を聞いた。三田市においても市民の命を守る急性期医療の確保をするために、再編統合した新病院の設置は必要不可欠である。

しかし、建設に対する不安の声もあるが、その声を歓びの声へと変えるために、医師の確保、診療科の充実、交通アクセスの確保等、山積の課題が良い方向へと進んでいくよう取り組んで参りたい。(大西雅子)

市民病院あり方特別委員会行政視察

(令和5年7月5日：岡山県玉野市)

病院の再編・統合等について

